

地域の幼児教育に関するニーズに応える幼稚園づくり ― 地域に開かれた幼稚園を目指して ― (2)

○岡上直子 井上千枝美

(東京都教育庁指導部初等教育指導課)

本稿においては、本研究の(1)によって明らかになった地域の幼児教育に関するニーズに応じて幼稚園を開くことの意義、及び幼稚園が果たす幼児教育のセンター的役割とその内容・方法について、研究協力園の実践から考察した結果を以下に述べる。

1 幼稚園を開くことの意義

職員が意欲的に経営に参画し、子供が生き生きと楽しく過ごし、地域の人々がはつらつとして親しみを感ずる幼稚園を目指して、幼稚園を開くことについて以下のような意義があると考えられる。

- (1) 幼稚園と家庭・地域との理解、連携が密になる。
- (2) 保育活動の活性化が図れる。
 - ・地域の教材化による意欲の喚起
 - ・地域の人材活用により、教育内容が多様になる
- (3) 子供を幼稚園と家庭が一体となって育てるという風土ができ、それぞれの教育力の向上につながる
- (4) 幼稚園が地域におけるセンター的役割を果たし、地域の連帯を強めることにつながる。
- (5) 幼稚園への信頼につながる。
- (6) 教職員相互の協働・協力活動が活発になり、学年経営・学級経営が一層効果的に営まれる。

2 求められている地域の幼児教育のセンター的役割

(1) 地域の子供の成長・発達を促す教育の場としての役割

家庭、地域の人々は、「あそこの幼稚園の子供は、よく育っている。」と感じると、幼稚園に大きな信頼を寄せ、幼稚園は地域の幼稚園として位置付けていく。そこで、幼稚園は日々の保育の充実を図り、幼稚園本来の目的である子供の成長・発達を促す教育の場としての役割を果たすことが大切である。

(2) 地域の子育てネットワークづくりをする役割

子供が地域の中で育つためには、地域の中で温かく受け止められることが必要である。研究の実践の中で地域の人々は園児とかかわるのを心待ちにしている、かかわりを求めていることがわかった。そこで幼稚園は、このような地域のニーズを受け止め、幼稚園を開くことは勿論のこと、幼稚園から地域に出向き、地域の人々との心をつながりをつけ、地域の子育てのネットワークづくりをしていくことが必要である。

(3) 遊び場の保障と遊びを広げる場としての役割

遊び場の減少や人間関係の希薄化から子供集団の遊びが減少し、今まで自然に伝えられていた遊びが伝承されず、子供の遊びの内容が乏しくなっている。

そこで、幼稚園は遊びを広げる場として施設を開放し、子供が安心して遊びを展開できるようにするとともに、遊びを伝承する人がいることが必要である。そして、幼稚園に行く仲間と一緒に遊んでくれる人がいると子供が感じとれるようにし、幼稚園が地域の遊び場として定着するよう努めることが大切である。

(4) 共に子育ての喜びを味わえる場としての役割

保護者は子育てをできるだけ自分の手から離れたがっていると言われている。しかし、保育参加や地域の人々とかかわりの実践の中で、回を重ねるごとに保護者や地域の人々は、子供とかかわる楽しさや子供の成長に気付き、子育ての喜びを味わっている。そこで幼稚園は、子供と家庭・地域の人々がかかわって楽しめる場を設定し、共に地域の子供を育てていく喜びを味わえるようにする必要がある。

(5) 子育ての悩みを相談する場としての役割

子育ての悩みを相談する人が身近にいないために、子供の発達に応じた子育てができない家庭が増えており、こうした保護者の相談に応じていく必要がある。

本研究では、保育参観や保育参加などの中で、子供と一緒に遊び、あるいは子供とかかわる教師や他の保護者の姿を見て、「子供って～なのね。」などと、保護者が自分で子育てについて気付いていく姿が見られた。幼稚園が相談の場としての役割を果たそうとするとき、コーナーの開設も一つの方法だが、このように保護者自身で問題に気付き答えを見つけていけるような場の工夫が必要である。

(6) 子育てについて啓発する場としての役割

教育情報が氾濫し、保護者にとって、幼児期に何を大切にし、何を育てたらよいかが見えにくくなっている。そこで、保護者に啓発する場として子育てに関する講演会や講習会の開催、保育参観・保育参加等を行い、保護者が子供を理解したり、親子のかかわり方を学んだりする機会にしていくことが大切である。同時に、これらの場を通して保護者同士のつながりができよう工夫し、保護者同士が啓発し合えるようにすることが大切である。

(7) 喜びや生き甲斐を感じるかかわりの場としての役割

研究の実践の中で、地域の人々は子供とかかわるだけでも楽しさや喜びを感じていたが、回を重ねると「こんなことをしてあげたい。」と申し出て自分の力を発揮したり、役に立つ喜びや生き甲斐を感じていた。このように幼稚園は、地域の人々が子供や地域の人同士など、多様なかかわりの中で、喜びや生き甲斐を感じられる機会をつくっていくことが必要である。

(8) いつでもどこでも学びつづける場としての役割

今日、生涯学習の社会の中で、地域の人々が気軽に立ち寄り様々なことを学べる場が求められている。人々は、一つの場に集いかかわる中で新たな自分の可能性を見だし、あるいは目的を見つけて行動しようとする。そこで幼稚園は、園の施設や園庭を開放し、地域の人々が気軽にいつでも立ち寄って興味のあることにかかわり学ぶことができるような場や機会をつくっていく必要がある。

3 地域の幼児教育センター的役割を実施するに当たっての基本的な考え方

(1) 保育の本質を大切にす。

保護者の要望に応じて様々なイベントを行うのではなく、保育の本質を大切に、それぞれの活動の中で園児がどのような経験をし、発達が促されているかなど、的確な評価をして常に改善していく必要がある。

(2) 地域の失われた子育ての機能を回復する。

かつては井戸端会議が盛んで、そこで子育ての悩みを話し合い、互いの生き方や価値観を理解して子育ての喜びを共有し、地域の連帯意識も生まれた。このような井戸端会議ができる場を幼稚園が提供することでその機能を地域に回復させ、活性化させていく。

(3) 心の触れ合いを重視する。

多様なかかわり方ができる実践が期待されるが、その中でどのような触れ合いをするかが重要である。どのような活動やネットワーク化でも、義務的で心の触れ合いがなければその実践は意味をもたない。

(4) 幼稚園経営を、子供に開き、家庭・地域に開き、教職員に開く。

子供や家庭・地域に、幼稚園がもっている情報や教育機能を開き、幼稚園の教育内容や方針を知らせ、活用しやすくすることが大切である。さらに、園長は、どのように開かれた幼稚園を実現しようとしているのか、その方針を明らかにし、教職員が共通理解し意欲的に経営に参画するようしていく必要がある。

4 地域に開かれた幼稚園の実施上の留意点

(1) 地域性に基づいた幼児教育のセンター的役割を果たす内容の選択

地域によって人々のかかわり方は異なり、幼稚園が果たすべき役割も異なる。例えば、園の周りに社宅、官舎が多く、すぐに他の地域に移る人が多くてつながりが薄い地域では、地域の人々がつながるきっかけをつくる必要がある。また、地域のつながりは強いが子供がいる家庭が少なく世代間のかかわりが少ない地域では、子供とかかわりたい、地域のために役に立ちたいという地域の人々の欲求を満足させ、世代間のかかわりがもてる場をつくる必要がある。

このように、それぞれの地域の特性に応じた役割を見だし、実践していくことが大切である。

(2) 園の規模や実情に応じた活動内容と運営

職員数、園舎の構造等の実情により、開かれた幼稚園として活動できる内容は制限されるので、活動の内容や運営の方法を工夫する必要がある。

(3) 幼稚園から家庭・地域へ家庭・地域から幼稚園へと両方向に働きかけるネットワーク

幼稚園から家庭への一方的な働きかけではなく、家庭・地域がどのようなことを求めているのかを受け止め、互いに必要性を感じる両方向に働きかけるネットワークづくりの必要がある。

(4) 人々が参加しやすい環境づくり

- ・参加者が見通しを立てやすい広報の工夫
- ・連携の相手とこまめな連絡・調整
- ・来園者にとって、居心地のよい雰囲気づくり
- ・安全に対する配慮、等の環境を工夫し、実践しながら、互いに必要なこと、より良い方法を見つけ出す柔軟な運営をしていくことが大切である。

(5) さらに充実していくための地域への働きかけ 成果と課題の明確にし、積極的に働きかける。

6 まとめ

開かれた幼稚園として果たすことが求められている役割やその内容・方法について、実践から分かった事柄を述べてきた。しかし、一つの幼稚園がこれらの役割をすべて実践することが必要なのではない。幼稚園を開くための形式として何かをするのではなく、それぞれの幼稚園が、子供たちや地域の生活にとって必要なことを実践していたら、いつのまにか幼児教育のセンター的役割を果たし、地域と幼稚園が互いに心を開き心を通わせていた、つまり、結果として開かれた幼稚園になっていくことが大切であると考えられる。